

島根大会 報告

平成28年7月27日～29日

今年の全国大会は島根県出雲市にて行われました。大会の様子を写真と参加者の感想でご紹介いたします。

◇開会行事・基調提案



島根県の難言教育が教育哲学を大切にし、きこえとことばに課題のある子供たちの指導の本質を考えているということがとても伝わってきました。

提案内容は、現在の自分の指導を振り返るきっかけになりました。自分は、子どものできないところにばかり目が向いてしまい、どうかしないという目線で指導内容を考えてしまうことが多かったですが、今後は、子どもの暮らしを見つめられる目を養っていきたいです。



◇シンポジウム「子供たちが自分らしく暮らすために必要なこと ～関係・まなざし・心～」



心が十分満たされるとがんばれること、苦手さをもちながら肯定的に生きていくなど、3人の先生方の話の中に通級の担当として心がけるべき事のヒントがたくさんありました。

シンポジストの方たちの経験されてこられた貴重なお話を聞くことができ良かったです。島根の通級のこれまでの経緯のようなものを知り、大切なことが受け継がれていると感じました。会場の方たちからも意見が聞け、立場の違う方たち同士のつながりがあることがとても良い支援につながるんだと感じました。

◇記念講演「暮らしと教育、そして障がい ～子どもの暮らしはどこにある？～」



暮らしという視点から現代の子どもを取り巻く環境に改めて気づき、暮らしを大切にすることの意味が少し見えたような気がしました。

子どもの「課題となってる行動」ばかりに着目するのではなく、「全人的な存在性（そのらしさ）」を重視することの大切さに気づきました。

シンポジウムで感じた疑問に答えをもらえたように感じました。成す(Doing)ことの自信と、在る(Being)ことの自信という二つの自信の話が難言教室の教員として大事な視点だと感じました。



◇分科会

第1分科会：構音障がい

第2分科会：吃音

第3分科会：言語発達

第4分科会：聴覚障がい

第5分科会：発達障がい

第6分科会：当事者・親・親の会

第7分科会：管理職・行政担当者

発表校の先生方が保護者に対してお話しされた「私たちには、今すぐ（吃音）を治す力はないです。けれども、言葉の教室でできることはいっぱいあると思います」という言葉が心に残りました。（第2分科会）



具体的な事例から学ぶことが多く、また他都市でのことばの教室の運営についても知ることができ、良かったです。特に資料として提示していただいた構音指導手順のマニュアルは大変わかりやすく、すぐ指導に取り入れられるものであり、みんなで共有していきたいと思いました。（第1分科会）



発表では「自分には入らない情報がある」ことを知ることがとても大切ということが心に残りました。子どもに「困ってることない？」と言うと、「ないよ」と言われることが多いけれども、困っていることがわかっていない、わかっていないことがわかっていないのかなと気付かされました。（第4分科会）

具体的な実践を聞いてよかったです。情報保障の在り方を見直す機会になりました。子どもをいろんな側面で見られるよう力を付けていきたいと思いました。

（第4分科会）



多くの事例を通して、吃音を治すことに縛られず、吃音を受け入れることの大切さを学ばせていただきました。

（第2分科会）

今回の分科会では、クラス担任、幼児教室担当者、ST、施設事務とさまざまな立場から子どもと関わっておられる先生方とお話しでき、互いに思っていること、歩み寄り共有できる情報や支援方法は何かを討議しました。

子どもと保護者の信頼関係をベースに支援がスタートしていくこと、信頼関係を築くために必要なこと、その子をしっかり知ることの大切さを改めて感じました。

普段、あいさつをしたり、一緒に食事をしながら生活に沿った会話をしたりすることは、一番身近な支援であることにも気付きました。（第3分科会）

先生方の報告、とても刺激を受け、心が熱くなりました。討議も活発で勉強になりました。